

新学長に馬場杉夫教授

◆投票・開票結果◆	
投票総数	513票
有効投票	503票
◆得票数◆	
馬場 杉夫	287票
佐々木重人	216票

学校法人専修大学は、佐々木重人学長の任期満了に伴う次期学長の選任を行い、7月23日、馬場杉夫(ばば・すぎお)経営学部教授が第18代学長として選任(新任)された。就任は9月1日付で、任期は3年間。次期学長候補者の選出は、専修大学学長選任に関する規程に基づき、6月24日、神田・生田両キャンパスで第1回投票が行われた。

馬場教授が有効投票の過半数を得たため、投票管理委員会(伊藤博明委員長)は、専修大学学長選任に関する規程第3条第1項第1号及び同項第3号に基づき、同日付で馬場教授を最終学長候補者として理事会に報告した。これを受け、学校法人専修大学は7月23日、評議員会の議を経て理事会を開き、馬場教授を学長として選任(新任)した。

馬場新学長に聞く



馬場杉夫新学長に今後の抱負や教育ビジョンなどを伺った。

—新学長としての抱負をお聞かせください。

まずはいろいろな方々と対話をしていきたいと思っています。その中から、今専修大学がどのような問題に直面しているか、しっかりと把握することがスタートラインです。以前経営学部長として大学経営に携わっていた時から9年がたち、その間に大学をめぐる状況は変化しています。時間が許す限り、できる限りフラットな状況で話し合いたいと思っています。

もちろん立場の違いもあり、さまざまな意見があるでしょう。立場や意見の違いを尊重して、それぞれが共感できる機会を持ち、理解を深めることが重要です。

—ご自身が専門として研究してこられた分野と共通する部分もあるでしょうか。

そうですね。私はずっと「人」をテーマに研究しています。卒業論文の「才能があるのにパフォー

マンスを出し切れないのはなぜなのか」という疑問からスタートしています。研究の根底にあるのは、

二つのキャンパスがあるのは、専修大学の大きな強みです。特に生田は、この地域になくはならな

略歴 1966年生まれ。58歳。神奈川県横浜市出身。博士(商学)。専門は経営学(人的資源管理、戦略マネジメント)。95年慶應義塾大学商学研究科後期博士課程単位取得退学。同年、専修大学経営学部講師。97年同助教授。2003年同教授。12～16年経営学部長。16年専修大学学長職務代行、21～25年大学院経営学研究科長。主な著書は『なぜ組織は個を活かせないのか』(2019年、中央経済社)、『個の主体性尊重のマネジメント』(2005年、白桃書房)など。

ことも、これからますます重要になってくるでしょう。また、研究拠点としての役割、そして地域社会との連携ももっと深めていきたいですね。これまで大学の役割ってどこか固定化されていた感じもありますが、もっと自由に考えてもいいんじゃないかと思っています。

—変化が激しい時代の中で、専修大学が担う役割についてお考えをお聞かせください。

大学に求められているのは、学生に寄り添い、学生の事情や能力、個性や目標、夢に合わせた学びのカスタマイズです。学生たちにはしっかりとしたい思いがあり、目標がある。一方で社会や企業側が求める人材像はどんどん高度化しています。そのギャップの中で学生たちは時にあきらめたり折り合いをつけたりすることもあるのですが、今は「自分らしい働き方」が重視される時代です。だからこそ、個々の学生に合わせた学びを提供し、思いを遂げるサポートができるという思いがあります。結局、自己成長するためには自らが積極的に取り組むことが必要です。どれだけ学生たちに魅力的な機会を提供できるか。それが専修大学の未来の要になると思います。

学生の皆さんは、基本的なことをしっかりと学んだうえで、新しいことを始めてみるのもいいでしょう。うまくいかないこともあるでしょう、しかし失敗も時には誇りに思えるくらい懸命に取り組める環境があるといいですよ。

—学生や教職員、校友・育友にメッセージをお願いします。

ともに専修大学の未来を明るくしていきましょう。そのためには真摯にいろいろなチャンネルを開いていきたいと思っています。

対話と共感でひらく未来

人の主体性をどう育んでいくのかということ。人や組織はついに、答えが出やすいものに取り組みがちですが、現代社会は答えが出にくい問題にこそ積極的に取り組む姿勢が求められています。そうしたことができる体制づくりや機会づくりが、学長としての私の役割だと思っています。

—周囲を巻き込むとは。

少子化が進み18歳人口が減少する中で、つい大学間競争に目が向きがちですが、そもそも大学の役割とは何でしょう。それは、人材を育てることです。それは、志を持って入学した学生をきちんと伸ばしてあげること、それが我々が担っている役割の一つです。

その意義を浸透させるには、他大学とも協力して、社会に向けて共通のメッセージを発信していく

PRIVATE

学生時代 自転車競技の選手でした。短距離、長距離一通りやりました。神奈川県代表に選出されたり、インカレで入賞したり、当時は自分なりに頑張っていました。今思えば甘いなあ、と。今のマインドで大学生に戻ったら、もっといい結果を残しているはず。

現在の趣味 ランニングです。フルマラソンやウルトラマラソン(100㎞)にも出場しています。1時間でもかなり負荷の高い走りをするので、心地よい疲労感を感じ、気分転換になっています。年齢とともにフルマラソンで3時間を切ることが難しくなっていますが、挑戦を続けていきます。ほかにも家庭菜園、植物や蘭も育てています。この夏はナスやトマトが豊作でした。

ニエース専修

毎月1回15日発行
発行所
専修大学広報課
☎101-8425
東京都千代田区
神田神保町3-8
☎03-3265-5819(直)

主なニュース

- ③ 学童軟式野球選手権「専修大学カップ」……
- ④ 法学部長に榎教授・商学部長に小林教授……
- ⑤ 体育会8団体は狛江市の小学生と交流……
- ⑥ 校友会定時総会 変わらぬ絆確かめる……
- ⑦ 石巻専修大学 石巻川開き祭りに参加……



▲専修大学カップ

育友会支部懇談会 全国で開催

7月から9月にかけて、育友会の支部懇談会が全国62会場で開催され、多くの保護者らに参加した。

115面に記事



東京3支部合同懇談会では鹿住倫世商学部教授による模擬授業も行われた

大雨等自然災害で被災された皆様へ

被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。専修大学と石巻専修大学は、被災された学生と保護者の方に対して、安心して学業が継続できるよう支援を行っております。右の担当窓口にご相談ください。

1. 経済的支援について

- 学生生活課(神田) TEL 03・3265・6824
- 学生生活課(生田) TEL 044・911・1267
- 大学院事務課(神田) TEL 03・3265・6568
- 大学院事務課(生田) TEL 044・911・1271
- 法科大学院事務課 TEL 03・3265・6891
- 石巻専修大学事務課 TEL 0225・22・7712

2. 心の相談について

- 学生相談室(神田) TEL 03・3265・6216
- 学生相談室(生田) TEL 044・911・1278